

2019年度

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学 FD 委員会

まえがき

2019 年度前期および後期の授業評価アンケートの結果を、ご報告いたします。先生方には、講義時間内でのアンケート調査の実施、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございます。

本アンケートは 2015 年度前期から同じ質問項目で行っており、授業に対する学生の評価を年ごとに比較することが可能です。

本年度も原則として全教員を対象に、授業評価アンケートを実施しました。また、前期と後期の結果をまとめて 1 冊の報告書としております。

1 冊の報告書にしたことで、前期と後期の比較が容易にできるようになっております。本報告書を学年の変わり目である前期と半年の学びを経た後期の比較、学生の学びに対する姿勢や専門課程への興味の変化などを評価する資料として活用して頂ければと考えております。カリキュラムポリシーの具体化などの FD 活動のためにも教員個人だけでなく、各学科・学部でも種々のデータを詳細に検討して頂けますよう、お願いいたします。

本結果報告書でも、例年通り FD 委員会において学科別などの集計や分析を行いました。本学のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の再考や具体化、学びの質保証(ディプロマポリシーの具現化)、また、本取りまとめを作成中の現在も様々な対策が講じられている新型コロナウイルス感染症等の「対面授業が困難な状況下」における各学部・学科の教育課程、教育や学びの方針の検討のための資料としても、本データを活用して頂けるのではないかと思います。そのためにも、教職員の皆さまには、より一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

2020年 3月 31 日

相愛大学 FD 委員会

庄條 愛子

中村 圭爾

進藤 容子

赤石 敏夫

井上 陽

小藤 一吉

藤永 慎一

温井 雅也

木村 諭史

授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格科目）

1. 評価の特徴

基礎・共通科目の特徴は、受講生に1・2回生が多いこと、留学生が多く含まれること、授業の内容が語学からスポーツ実技まで幅広いことなどである。資格科目の特徴は、受講生に2回生以上が多いこと、留学生が少ないことなどである。

基礎・共通科目および資格系科目のいずれも、授業評価アンケートの評価値は毎年同じような傾向を示している。具体的には、基礎・共通科目は受講者の授業に対する姿勢を問う問1～3の質問項目は前期に比べて後期で低下し、担当教員の授業に対する姿勢を問う問4～8および授業の実施状況や理解に関する問9～11の質問項目は、前期と後期で大きな差は見られない。また、授業内容の理解および受講による学習効果を問う問12、13および14の項目は、後期で若干低下する。資格系科目は前期と後期の評価値に大きな変化は見られず、各質問項目の評価値も年度により大きな変化は見られない。本年度前期・後期の授業評価アンケートでも同様の傾向が見られたが、特に基礎・共通科目の前期と後期の評価値の差が大きい問1、3、13および14の結果を図に示した(表1および図1～4)。

問1「あなたはこの授業に休まず出席しましたか」の評価値は、例年、前期に比べて後期でやや低下する。本年度の基礎・共通科目全体の評価値も前期に比べて後期で低下したが、この低下は留学生の評価値が前後に比べて後期で著しく低下したことが原因と考えられる(図1)。本質問項目の全学平均評価値は、基礎・共通科目全体の評価値とほぼ同じ傾向であり、昨年度までは留学生での大幅な低下は見られなかったことから、本年度に限定的なものとも考えられる。しかし、本質問項目は「学びの姿勢」の根本であることから、今後も同様の状況が認められる場合には、迅速な対応が必要と考える。

問3「あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか」の評価値は、例年同様に本年度も全体的に低く、基礎・共通科目全体、留学生および留学生以外のいずれも前期に比べて後期で大幅に低下した(図2)。基礎・共通科目全体の評価値は全学平均に比べても低く、また後期での低下も著しい。この基礎・共通科目全体の低値は留学生以外の評価値が著しく低いことが原因と考えられ、後期の低下は留学生および留学生以外の評価値が前期に比べて著しく低下することが原因と考えられる。基礎・共通科目の受講生の多くが1回生であることを考えると、大学生活に慣れた後期は「大学での授業時間のみが学習」となっていることが推察される。本学には学修と資格取得が密接に関連する学科もあることから、1回生から「授業時間外の学習」に取り組む力を養う試みを期待する。

問13「この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか」

の評価値は基礎・共通科目全体で後期に低下し、この低下は留学生以外の低下が原因と考えられる(図 3)。この低下は上記問 3 同様に、後期には 1 回生が大学の授業に慣れること、語学などの授業では後期は前期の「基礎(I などと標記)」に続く「応用(II などと標記)」が配当されていること、などが原因と考えられる。ただし、後期に配当されている授業でも「新しい知識・考え方・技能」を得られるため、「前期と同様な学生の学びに対する緊張感」を高めることで評価値や学生の意識に変化を促すことができると考える。

問 14「この授業を受講して満足できましたか」の評価値は基礎・共通科目全体で後期に低下し、この低下は留学生以外の低下が原因と考えられる(図 4)。本質問項目の評価値は例年前期に比べて後期はわずかに低下する傾向にあり、本年度の大幅な低下は上記問 13 に連動したものと考察する。学生の授業に対する緊張感を高めることで、学びに対する新たな気付きや知識を得たという充実感や満足感を高めることができ、問 13 および 14 の評価値の上昇につながると考える。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄は「新しいことが身に付いた」「先生が親切だった」という意見が最も多かった。全体的に基礎・共通科目や資格系科目の授業内容に関する自由記述は肯定的な意見が多く、同じ授業に対して否定的な記述がある一方で、「力がついた」と肯定的な記述が多くみられた。

表 1 基礎・共通、資格および全学平均の評価値

	全体		留学生		留学生以外		資格		全学平均	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
問 1	3.38	3.34	3.62	3.35	3.36	3.34	3.46	3.44	3.45	3.40
問 2	3.41	3.28	3.71	3.54	3.38	3.24	3.70	3.54	3.55	3.53
問 3	2.91	2.72	3.37	3.13	2.87	2.66	3.24	3.18	3.14	3.06
問 4	3.40	3.27	3.63	3.65	3.37	3.21	3.77	3.60	3.57	3.56
問 5	3.67	3.69	3.78	3.86	3.66	3.66	3.82	3.79	3.74	3.74
問 6	3.55	3.40	3.71	3.73	3.53	3.36	3.78	3.72	3.66	3.64
問 7	3.63	3.40	3.82	3.70	3.61	3.36	3.83	3.69	3.69	3.62
問 8	3.52	3.44	3.71	3.59	3.51	3.41	3.51	3.55	3.58	3.55
問 9	3.44	3.43	3.60	3.71	3.43	3.39	3.70	3.76	3.62	3.63
問 1 0	3.54	3.42	3.77	3.74	3.52	3.38	3.63	3.68	3.61	3.59
問 1 1	3.39	3.28	3.65	3.69	3.36	3.22	3.65	3.49	3.53	3.55
問 1 2	3.37	3.21	3.57	3.69	3.35	3.14	3.67	3.62	3.52	3.53
問 1 3	3.45	3.28	3.66	3.58	3.43	3.24	3.72	3.59	3.58	3.55
問 1 4	3.48	3.31	3.78	3.71	3.46	3.26	3.72	3.56	3.61	3.57
平均値	3.44	3.32	3.67	3.62	3.42	3.28	3.66	3.59	3.56	3.54

表2 アンケート質問項目と内容

問1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか
問2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか
問3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか
問4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか
問5	担当教員は授業時間を守っていましたか
問6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか
問7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか
問8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか
問9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか
問10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか
問11	この授業の内容は理解しやすかったですか
問12	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか
問13	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか
問14	この授業を受講して満足できましたか

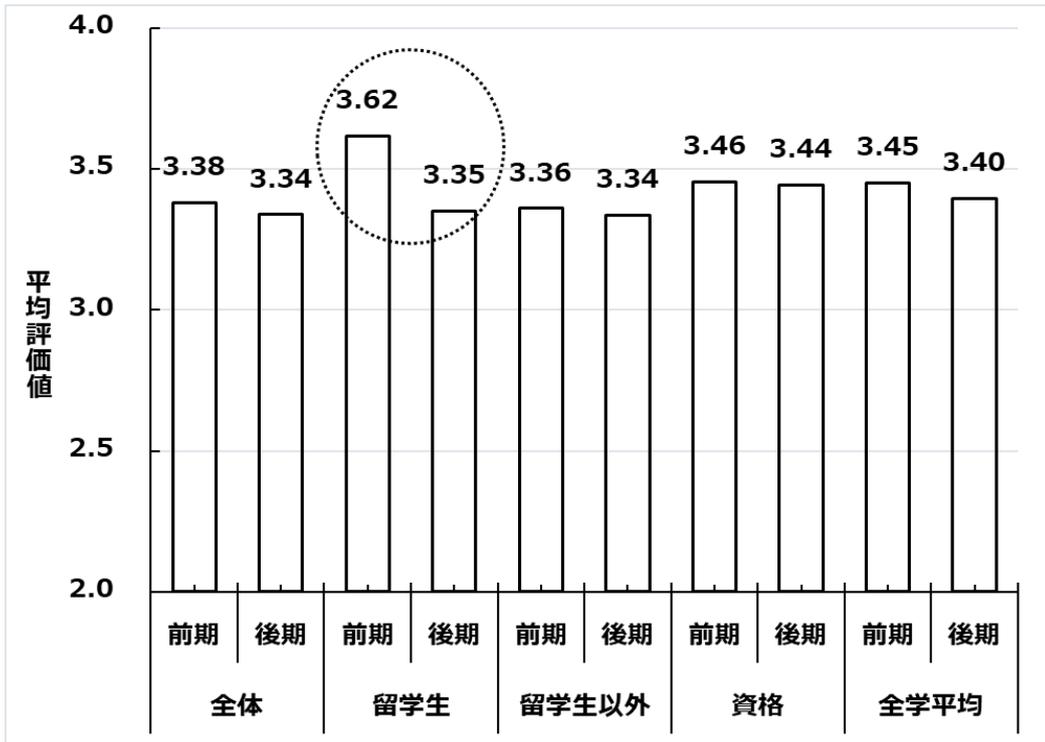


図1 2019年度前期・後期の基礎・共通、資格
および全学平均の問1の平均評価値

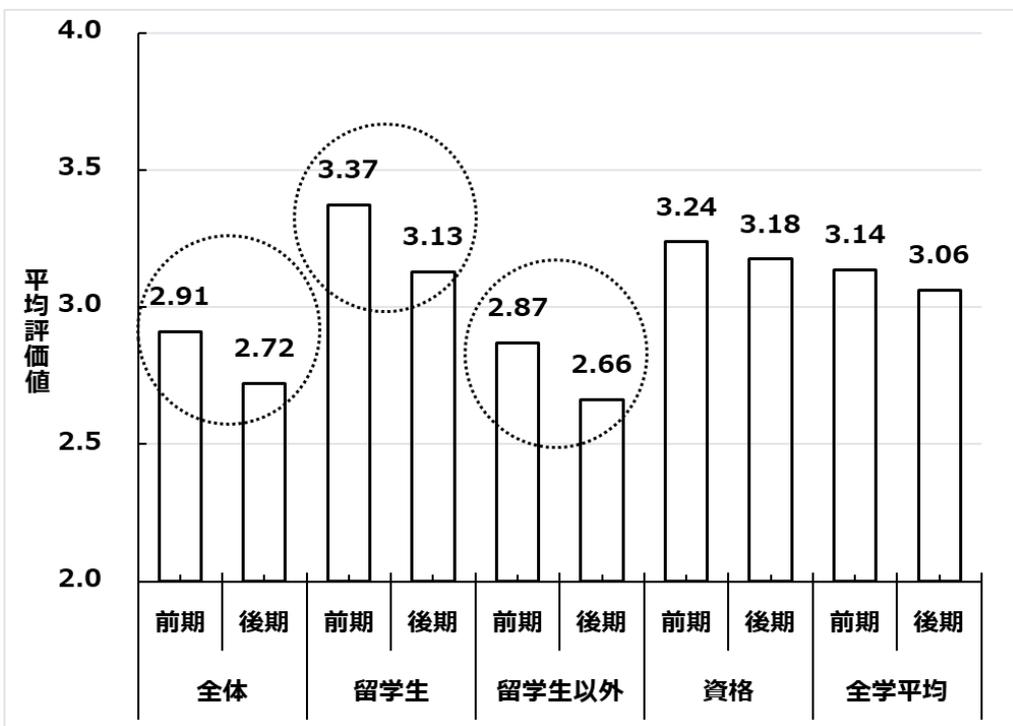


図2 2019年度前期・後期の基礎・共通、資格
および全学平均の問3の平均評価値

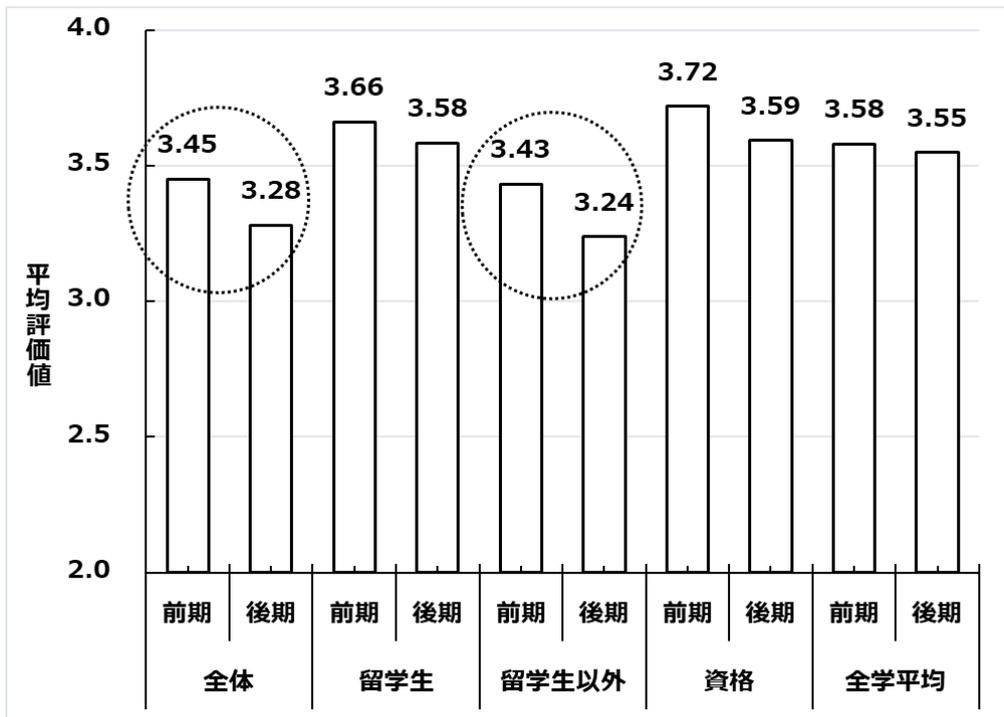


図3 2019年度前期・後期の基礎・共通、資格
および全学平均の問1.3の平均評価値

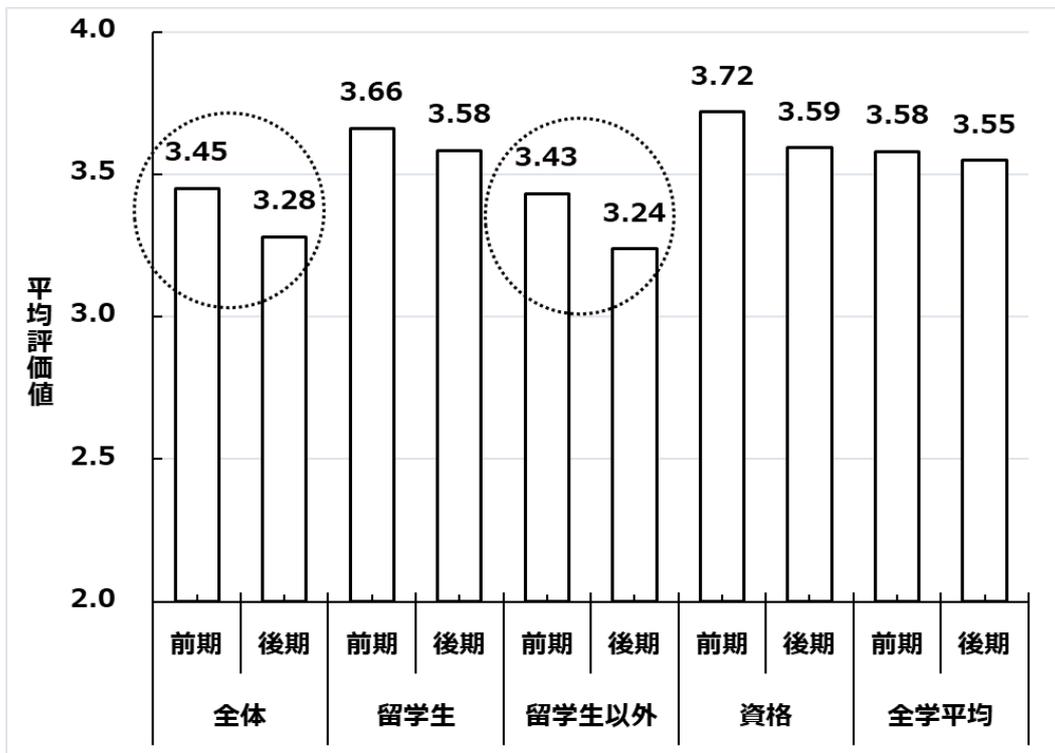


図4 2019年度前期・後期の基礎・共通、資格
および全学平均の問1.4の平均評価値

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

1. 講義系科目の評価の特徴

音楽学部前期・後期においては問3「あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間内外も学習しましたか」が若干低くなっている。これは全体的に見ても低い傾向にあるが、音楽学部では講義と言えども実技を伴う演習も含むこともあるため、その場での実力を試されることが多く、予習・復習をするという概念ではないということも要因にあらう。音楽マネジメント学科の後期は4.0という評価も多くみられる。きわめて満足度の高い授業であったということだろう。それ以外は概ね高評価だったと認められる（表1）。

前期	音楽学科	音楽マネジメント学科		後期	音楽学科	音楽マネジメント学科
	問1	3.50			3.45	問1
問2	3.67	3.59	問2	3.52	4.00	
問3	3.18	3.09	問3	2.98	3.33	
問4	3.69	3.49	問4	3.52	3.83	
問5	3.83	3.74	問5	3.67	4.00	
問6	3.78	3.72	問6	3.61	4.00	
問7	3.78	3.71	問7	3.67	3.83	
問8	3.63	3.62	問8	3.61	3.83	
問9	3.70	3.82	問9	3.63	4.00	
問10	3.74	3.55	問10	3.57	4.00	
問11	3.69	3.51	問11	3.49	4.00	
問12	3.69	3.71	問12	3.49	4.00	
問13	3.72	3.71	問13	3.51	4.00	
問14	3.76	3.71	問14	3.56	4.00	
平均値	3.67	3.60	平均値	3.51	3.86	

表1 音楽学部グループ平均（左：前期、右：後期）

2. 実技・レッスン系科目の評価の特徴

音楽マネジメント学科では前・後期とも対象科目がなかったため音楽学科のみについて、検討する。若干低い評価となった問2「あなたは授業（レッスン等）の準備（譜読み・練習等）を十分にしましたか」については学生自身が足りなかったと思っていたことがわかる。また、問5「あなたは授業（レッスン等）で教員に質問や疑問をよく尋ねましたか」については実技系科目の場合、師弟関係というものがあり、教員に質問する前に自己への問いかけを重んじられる傾向にあるということについても考慮して分析する必要がある（表2）。

前期	音楽学科		後期	音楽学科
問1	3.50		問1	3.4
問2	3.18		問2	3.15
問3	3.73		問3	3.85
問4	3.60		問4	3.87
問5	3.07		問5	3.18
問6	3.52		問6	3.71
問7	3.50		問7	3.78
平均値	3.44		平均値	3.56

表2 音楽学部レッスン・実技グループ平均（左：前期、右：後期）

3. 自由記述の特徴

自由記述の内容こそがその授業の評価の核心となることもあり、また様々な種類の科目によって教員の特長や学生が思っている期待を知ることができる。「楽しかった」「分かりやすかった」「先生大好き」などというコメントも多く見受けられたが、ここでは多くのコメントの中から音楽学部らしい顕著な例をいくつか抜粋して記述したい。

「スコアリーディングをしたことがなかったのでスコアの見方がよく分かり満足できました。キーボードハーモニーや和音の聞き取りなども知識が広がり、力になったと思います」（ソルフェージュ）

「オーケストラのスコアを読み自分たちでピアノを弾いて理解することができ、これまでのソルフェージュとは違う感じで楽しかったです」（ソルフェージュ）

「聴音を大学に入るまでほとんどやったことがなくて、この授業でコツとかも教えてもらって最初よりはできるようになったので良かったです」(ソルフェージュ)

一方ではもっと修得したい、不満足という点で「能力別にクラス分けしてほしい」という意見もあった。これは入学時は能力別にクラスが分かれるが、その後専攻によって履修可能なクラスが限られ専攻別の傾向が強くなるからである。

「ヴァイオリンを指導するうえでの重要な事を学ぶことができた。奏法など自分の練習に活かすことができる内容であった」(弦楽器指導法)

「教師としてあるべき姿を学びました。大変勉強になりました」(弦楽器指導法)

もっと修得したいという項目では「さらに深くご指導を願いたいです」という意見もあった。

「ひとつひとつのレッスンで教えて頂けることが自分の力に全てなったこと、1回1回のレッスンで、できることが増えていること」(声楽専攻実技)

「元々歌う事は好きでしたが、声楽の歌い方を今年初めて学びました。声をどうやって響かせるのか、外国語の歌詞はどんな意味なのか考えながら音楽に触れることができ純粋に楽しかったです。この授業で学んだことは専攻楽器にも応用できる財産になったと思います」(副科声楽)

「技術面でも表現面でもすごく勉強になりました。特に表現面では自分では思いつかないことをたくさん教えてくださったので、充実したレッスン時間でした」(打楽器専攻実技)

「ヴィオラ・ダ・ガンバという古楽器を演奏出来たことです。古典の譜読みも体験でき、とても良い経験になりました」(コレギウム・ムジクム)

「ピアノを弾く上で大切なバランスを考えることができました。また他の人の演奏を聴く事で自分との違いなどが勉強になりました」(伴奏法)

「リコーダーの楽しさが分かった。これからも続けて行きたい気持ちがある」(器楽合奏)

「様々な伴奏形態を考えたり実際に歌に合わせて伴奏を弾いたりと実践的に学習することができました」（伴奏法演習）

「今までピアノは苦手で、どう弾いたら良いかなど分からずコツもいまいち理解出来なかったが、先生に4年間習い、色々聞いていく中で、たくさん学べた。私にはとても分かりやすく丁寧に教えてくださっていたと思います」（伴奏法）

「自分が特に苦手な発音や息の使い方を重点的にしてくださったので少し苦手意識が薄れました。色々な歌曲をたくさんできて楽しかったです」（イタリア歌曲研究）

「高校の時よりも意欲も楽しさも増えた。とても分かりやすく、のびのびとレッスンを受講できた」（副科ピアノ）

レッスンや実技を伴うものは不満足という部分はほとんどなかった。「努力あるのみ」とか「練習頑張ります」というように自分が頑張らなければならないと考えている事が多い。一方、講義系ではやはり「プリントが見にくい」、「先生の話し方がストレス」、「学生を見下す」、「設備がよくない」など改善を要する期待の声や要望もあった。これらの声に対しては謙虚で寛容な受け止めが必要であり、担当教員はもとより、大学としても書かせて集計するだけでなく、きめ細やかに改善する姿勢を常に持つことが授業やレッスンの品質向上につながると考える。

授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

1. 全体

全体の平均値（質問 1～質問 14）について、前期が 3.56 であったのに比し、後期が 3.52 と微減したことには注意がいるかもしれない。さらに、留学生、および留学生以外の別で見えていくと、留学生が前期 3.67 から後期 3.65、留学生以外は前期は 3.45 から後期 3.42 となっている。ただし、昨年度を除き例年のデータにおいて後期は減少傾向にあり、数年単位で見れば、微減に留まるという見方もでき、必ずしもマイナス評価とも言い切れないところもある。

2. 質問 1～質問 3 について

- ①質問 1 あなたはこの授業に休まず出席しましたか。
- ②質問 2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。
- ③質問 3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。

これらの質問は授業を受けるにあたって学生の姿勢に関するもので、全ての質問項目を考える上で、大前提になるとも考えられる。もっとも、特に質問 9～質問 14 を改善していくことが、結果として質問 1～質問 3 を改善するとも考えられないこともないが、それは今後様子を見ていく必要がある。

- ①質問 1 あなたはこの授業に休まず出席しましたか。

人文学部全体としては、前期が 3.37、後期が 3.32 であり、決して高い数値ではない。さらに、留学生が前期 3.46 から後期 3.48 と微増しているのに対し、留学生以外は前期 3.28 から後期 3.18 と減少していることは注目しなければならない。最後にも述べることはあるが、留学生以外の単位未修得率、さらには退学者をなくすための具体策を講じる上で、後期に入り、出席率が低下するということは、学生の夏休みの生活状況、そして後期の授業がスタートするにあたって何かしらの手は打った方が良いのではないかと思われる。

- ②質問 2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。

全体として前期 3.52 から後期 3.48 へと微減し、その内、留学生は前期 3.62 から後期 3.61、留学生以外は前期 3.42 から後期 3.38 となっている。微減に留まることからすると、授業の目標を見失って出席率が低下するというわけでもなさそうである。

- ③質問 3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しま

したか。

全体として前期 3.10 から後期 3.02、留学生が前期 3.32 から後期 3.33、留学生以外は前期 2.89 から後期 2.77 となっている。この数字だけを見ると授業の予復習時間の減少は、留学生以外に見られるものであり、全体の減少値にそれが反映されている。そもそも授業時間外の学習をどのように指導していくのかは、学科として検討しなければならないところである。一方、留学生・留学生外ともそれぞれの生活状況（学費捻出のためのアルバイト等）もあるので、これと連動させながら学生の本分たる学習環境の改善を図りたいところである。

3. 質問 4～質問 8 について

- ①質問 4 担当教員の話し方はわかりやすかったですか。
- ②質問 5 担当教員は授業時間を守っていましたか。
- ③質問 6 担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか。
- ④質問 7 担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか。
- ⑤質問 8 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか。

これらの質問は、担当教員が授業をするにあたってもっとも基本となる項目である。総じて、前期から後期へと減少値を示しているが、これは担当者の態度が変化したということよりも、受講の学生が後期に入ってその年度の授業自体に慣れが生じたことに起因するとも思われる。というのも、もちろん個々の担当教員の問題ではあるが、学科として前期をふまえて後期に何か特別なことを行っているのかというとそうでもなく、だとすると考えられることは学生の心境の変化であろう。この 5 つの質問については、それほど分析する必要もないと思われる。

4. 質問 9～質問 11 について

- ①質問 9 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか。
- ②質問 10 この授業の内容の量やスピードは適切でしたか。
- ③質問 11 この授業の内容は理解しやすかったですか。

これらの質問は、担当教員が実際授業を行った学生の反応（もちろん質問 12 から質問 14 もこれに該当するが、これらは別に分析する）を示している。

- ①質問 9 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか。

全体として前期 3.64 から後期 3.67、留学生が前期 3.75 から後期 3.74、留学生以外が前期 3.52 から後期 3.62 とのきなみ上昇値を示している。しかし、同一授

業でアンケートを実施しているわけではないので、前期から後期へ改善されたと判断できない。さらに、授業の内容や性質にもよるし、必ずしも視聴覚教材を必要としない授業もあり、この数値は一概には判断できない。

②質問 10 この授業の内容の量やスピードは適切でしたか。

全体として前期 3.64 から後期 3.61、留学生が前期 3.73 から後期 3.69、留学生以外が前期 3.55 から後期 3.54 と、減少値を示しているが、大きな問題はなさそうである。

③質問 11 この授業の内容は理解しやすかったですか。

全体として前期は 3.57 から後期 3.53 だが、留学生が前期 3.65 から後期 3.64、留学生以外は前期 3.49 から 3.45 と減少している。ただ、理解しやすいかどうかは、学生の学力にも大きく左右されるし、もともとの設問が主観に依っているため、何をもって理解したのかどうかはわからない。付言すれば、理解しやすいことが良いこととも断言できないし、人文の学びからすると理解のしにくさこそ大きな学びとも言え、数値上は減少であったとしても、学びの充実という点においては数字上には現れないものがあると思われる。

ただ、とは言っても理解ができない以上、学びの楽しさを感じることが困難になってくるのも事実で、そうすると「授業がわからない」から、「わからないから授業に行くのをやめよう」というように、出席率にどのように影響しているのかは考えなくてはならない。

5. 質問 12～質問 14 について

①質問 12 この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか。

②質問 13 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。

③質問 14 この授業を受講して満足できましたか。

これらの質問は、担当者が実際に授業を行った結果、受講学生がどのように感じたのかを示すと考える。

①質問 12 この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか。

全体として前期 3.50 から後期 3.53、留学生が前期 3.61 から後期 3.62、留学生以外が前期 3.38 から後期 3.46 という上昇値を示している。留学生・留学生以外を問わず、ただ聞くだけの授業ではなく、問題意識を深めてくれていること

は、授業について一定の評価をしても良いように思われる。が、留学生に比べ、留学生以外の数値が低いことには留意しておく必要がある。

②質問 13 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。

全体として前期 3.56 から後期 3.54、留学生が前期 3.70 から後期 3.68、留学生以外が前期 3.43 から後期 3.42 と減少値を示している。しかし、微減に留まっており、またこれも質問 12 と同様と言ってもよいだろう。

③質問 14 この授業を受講して満足できましたか。

全体として前期 3.62 から後期 3.58、留学生が前期 3.74 から後期 3.68、留学生以外が前期 3.51 から後期 3.50 と減少値を示している。質問 12 および質問 13 を含め、質問 11 と連動させて見てみると、理解しやすいかどうかを問われれば低めの数値とはなるが、しかし、それが必ずしもデメリットとして働いているわけではなく、むしろ授業で習得した問題意識が単なる知識としてではなく、自己の問題意識へと変換されているようにも考えられる。それを裏付けるように、質問 14 の受講生の満足度で見ると留学生・留学生以外とも一定の数値を出している。このことからすると、人文の学びでは決して理解のしやすさを受講生が求めているわけではなく、むしろ未知なること、これまで考えたこともないようなこと、さらには考えたところで一筋縄では答えがでないようなことが求められているとも言えるし、授業担当者も適度な課題を出すと、受講者の満足度が上がると思える。

6. まとめ

今年度だけの問題ではないが、人文学部の課題としては留学生の数値に対して留学生以外の数値が低めになることには注意が必要であろう。質問全体にわたって考えると、授業に出てくれば一定の満足度は得られるものの、そもそも後期に入り、留学生以外の出席率の低下が見られることには何らかの策を講じる必要がある、喫緊の課題でもあろう。それは授業が果たすべきというよりも、授業以外のところで何らかの策を求められることである。このことは近年大学内でも議論されている単位未修得率、退学者の減少をどのように進めるのかという課題にも関わることである。

総じて人文系の学びは、本学に 6 つのコースを設けているように、決してそれぞれの専門分野が同一の価値観のもとに成り立っているわけではなく、多種多様な様相を呈している。かつ、人文の学びは、何かに「なる」（将来的に就く職業）ための学びではなく、人間そのもの、人生とは何かといった、哲学的・思索

的な学びを行うのがその役割である。だから、人文学部の傾向といってもそれは数値上のことであり、ひとまとまりにして論ずることは無謀に等しく、実際は個々の学生への対応が求められるべきであると思われる。とりあえず授業については大きな課題を見出せるわけではなく、授業以外での学生個々への対応が、学生の出席率の上昇、そして単位未修得率・退学率の減少へとつながっていくと思われる。

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は子ども発達学科、発達栄養学科のいずれも資格取得に重点をおいた授業カリキュラムを編成している。そのために、例年、授業評価アンケートの対象も資格取得に関連したものが多く含まれている。また、実習および演習が多いのも本学部の特徴であり、本年度の授業評価アンケート対象科目の半分近くが実習・実験および演習授業の形態であった。

両学科の資格取得には、一定の出席数が文部科学省および厚生労働省によって規定されている。また、実験・実習やグループワークなど同じ班の学生に迷惑をかけられないという学生の責任感も反映して問1「あなたはこの授業に休まず出席しましたか」は、本年度も全学に比べて高い値を示した。例年同様に、発達栄養学科では後期は前期に比べて低下した。問2「学習目標の理解」は全学・子ども発達学科に比べて前期は発達栄養学科で低く、後期は上昇した。この評価値の学科間での差異は年度によって異なるものの、発達栄養学科は前期に比べて後期に上昇する傾向が認められる。これは発達栄養学科のカリキュラム構成(カリキュラムツリー)による部分も大きい。本評価値はアンケートの対象授業が管理栄養士養成科目の同じ分野に属する場合には、基礎的授業(授業名+A などとして表記される授業)に比べて応用的授業(授業名+B などとして表記される授業)で高い。発達栄養学科のカリキュラムツリーは、いずれの学年でも前期に「基礎的授業」、後期に「応用的授業」の授業を配当しているため、後期は自ずと「学習目標の理解」が高くなると考えられる。

問3「予習・復習、時間外学習」の評価値は、2014年度から継続的に低い。例年「時間外学習の減少」は本学のみ課題ではなく、大学のみ課題でもないとして記述している。本課題の解決のため、様々な教育機関において「教室では講義は行わず宿題とされていた課題を個々の生徒に合わせて指導する『反転授業』」、「自分で学ばなければ学修できない『問題解決型学習法(PBL: Problem Based Learning)』」等への転換などが報告されている。本学は多様な専門分野で構成されているため、特定の授業法を全学的な授業に適応することは困難と考えられる。一方、演習などの授業では無意識に上記授業法を実施していると思われるため、今後はこれらの授業を中心に意識的な上記授業法の導入を期待する(表1および図1)。

問4～8までの項目は担当教員の授業に対する姿勢を問うものである。前期はすべての項目で全学および子ども発達学科に比べて発達栄養学科が低い値であったが、後期は学科による差は小さくなった。本質問項目に対する評価値は、本年度も対象授業によりばらつきが認められた。発達栄養学科に限ったことではある

が、履修者の少ない授業ではいずれの項目も評価値が高く、履修者の多い授業や講義系の授業では低い傾向がみられた。問 4～8 の質問項目は担当教員の授業に対する姿勢を問うものであるが、上記から教室などの授業環境や回答者の感情に左右される傾向があると考えられる。なお、例年同様に専任教員と非常勤講師の結果の比較を行ったが、いずれの項目でも両者の大きな差は見られなかったことから、専任教員の先生方と非常勤講師の先生が連携して各学科の授業を運営されている様子を窺うことができた(表 1 および図 2)。

授業の実施状況や理解に関する問 9～11 までの項目は、前期は全学および子ども発達学科に比べて発達栄養学科の評価値が低く、後期はいずれもほぼ同じ値であった(表 1 および図 3)。この傾向は毎年同じであり、問 2「学習目標の理解」で言及した「カリキュラム構成」によるものが大きいと考えられる。本項目に関連する自由記述から、本年度も先生方の様々な授業の工夫を窺うことができた。本質問項目を受け、2019 年度第 3 回 FD 研修会「教育改善としての『教員の授業の工夫』」では、人文学科 益田先生、子ども発達学科 実光先生・横島先生の「授業の工夫」を報告して頂くことができた。先生方のご報告は自らの授業運営に大きな刺激となったことから、今後も FD 研修会等として同様の取組を実施してもらいたい。

授業内容の理解および受講による学習効果を問う問 12、13 および 14 の項目は、前期・後期ともに発達栄養学科で低く、後期では各学科の差が小さくなった(表 1 および図 4)。この傾向は毎年同じであり、この項目も問 2「学習目標の理解」で言及した「カリキュラム構成」によるものが大きいと考えられる。ただし、授業評価アンケート対象科目の多くが資格取得に関連していることから、発達栄養学科のカリキュラム構成の前期授業において評価値を高める努力が必要と考えられる。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄は本年度も「楽しかった」「面白かった」という意見が最も多かった。本年度も「ノートが多い」等の否定的な記述の半面、同じ授業に対して「わかりやすい」「力がついた」と肯定的な記述もあり、学生間の学習能力に大きな差があることが推察される。

3. 身についた力の特徴

問 15 の身についた力の学生自己評価は本年度も前期および後期のいずれにおいても、子ども発達学科ではほとんどの項目が全学および発達栄養学科に比べて高かった。発達栄養学科は前期、後期のいずれもすべての質問項目が子ども発達学科または全学に比べて低く、この結果は 2015 年以降継続していることから、

発達栄養学科の学生の特徴と考えられる。本項目も問2などで言及した「カリキュラム構成」と関連する可能性が高いが、栄養士・管理栄養士はこの力のいずれも必要であることから、4年間のすべての学びを通してこれらの能力を高める工夫が必要と考える。

4. 授業評価アンケートの傾向と今後の課題

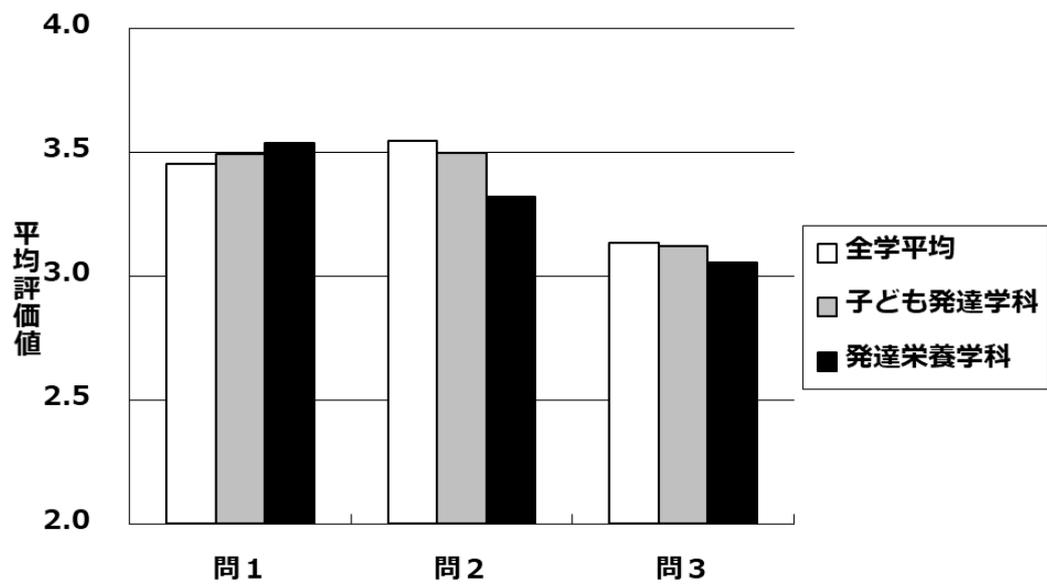
本学部の授業評価アンケートのとりまとめを、2014年から担当している。人間発達学部の6年間の傾向について、簡単にまとめる。

人間発達学部の評価値は「実験・実習・演習」で高く、「講義」では低く、また、専任教員に比べて日常的な接点の少ない非常勤講師では評価値が低い傾向が認められる。さらに、専門性の高い授業では授業の形態に関わらず、評価値が低い。特に専門性の高い非常勤講師の授業では、本年度も自由記述にも否定的な意見がみられた。但し、本アンケートの評価点が著しく低いということもなく、自由記述に肯定的な評価や意見が多数である場合には、否定的な意見をすべて受け入れる必要はないと考える。

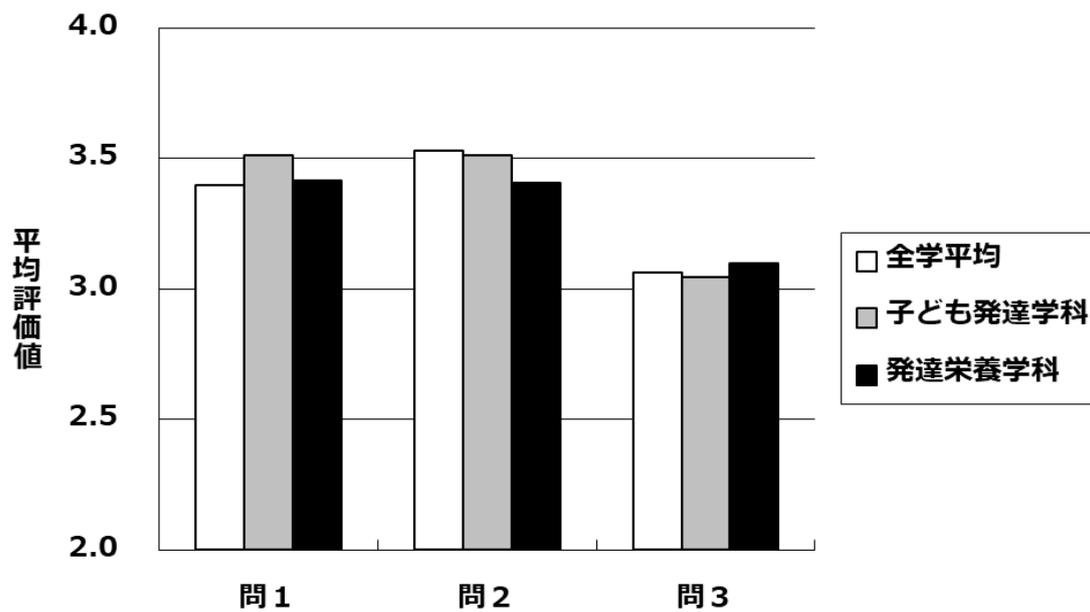
今後は、各学科の対象科目、アンケート対象学年、カリキュラム構成などに関連付けて「授業評価アンケート」のFDでの活用を検討したいと思う。

表 1 人間発達学部および全学平均の評価値

	前期				後期		
	全学	子ども発達学科	発達栄養学科		全学	子ども発達学科	発達栄養学科
問 1	3.45	3.49	3.54		3.40	3.51	3.42
問 2	3.55	3.50	3.32		3.53	3.51	3.41
問 3	3.14	3.12	3.05		3.06	3.04	3.10
問 4	3.57	3.48	3.27		3.56	3.47	3.42
問 5	3.74	3.69	3.58		3.74	3.59	3.61
問 6	3.66	3.59	3.46		3.64	3.52	3.55
問 7	3.69	3.62	3.50		3.62	3.54	3.55
問 8	3.58	3.54	3.41		3.55	3.38	3.51
問 9	3.62	3.56	3.50		3.63	3.49	3.56
問 1 0	3.61	3.47	3.36		3.59	3.52	3.46
問 1 1	3.53	3.44	3.26		3.55	3.50	3.39
問 1 2	3.52	3.46	3.31		3.53	3.49	3.39
問 1 3	3.58	3.52	3.34		3.55	3.48	3.41
問 1 4	3.61	3.52	3.32		3.57	3.53	3.44
平均値	3.56	3.50	3.37		3.54	3.47	3.44

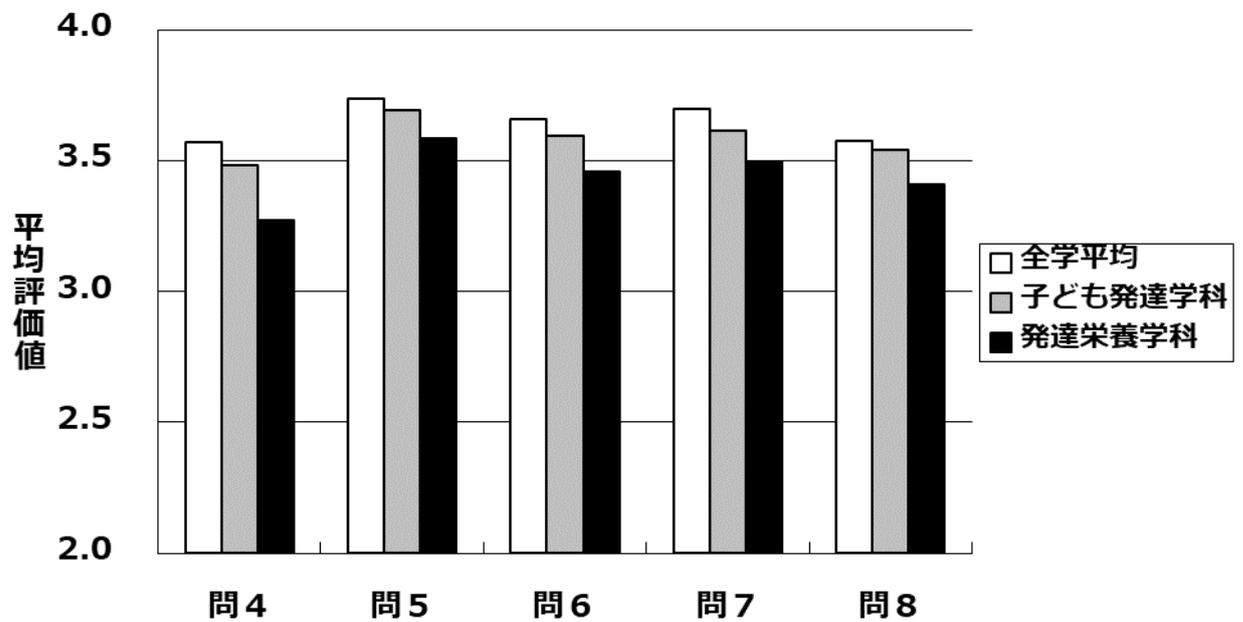


2019年度前期

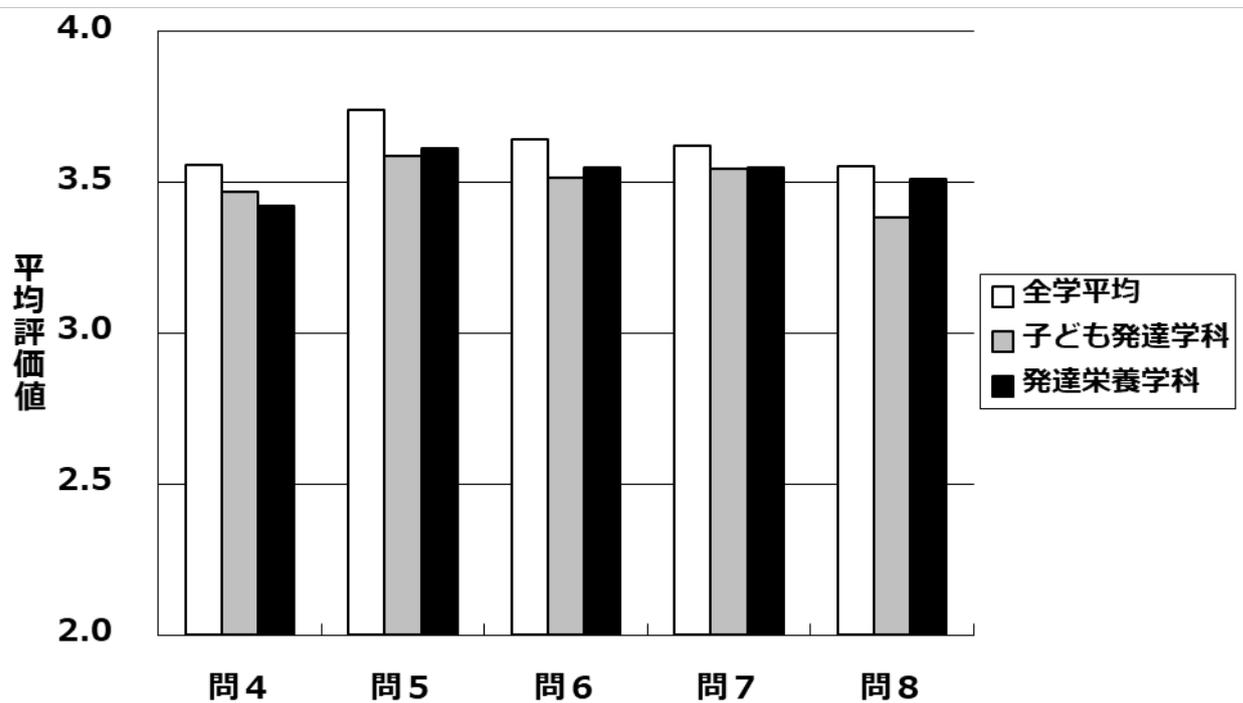


2019年度後期

図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評価値



2019年度前期



2019年度後期

図2 全学および人間発達学部の間4～8の平均評価値

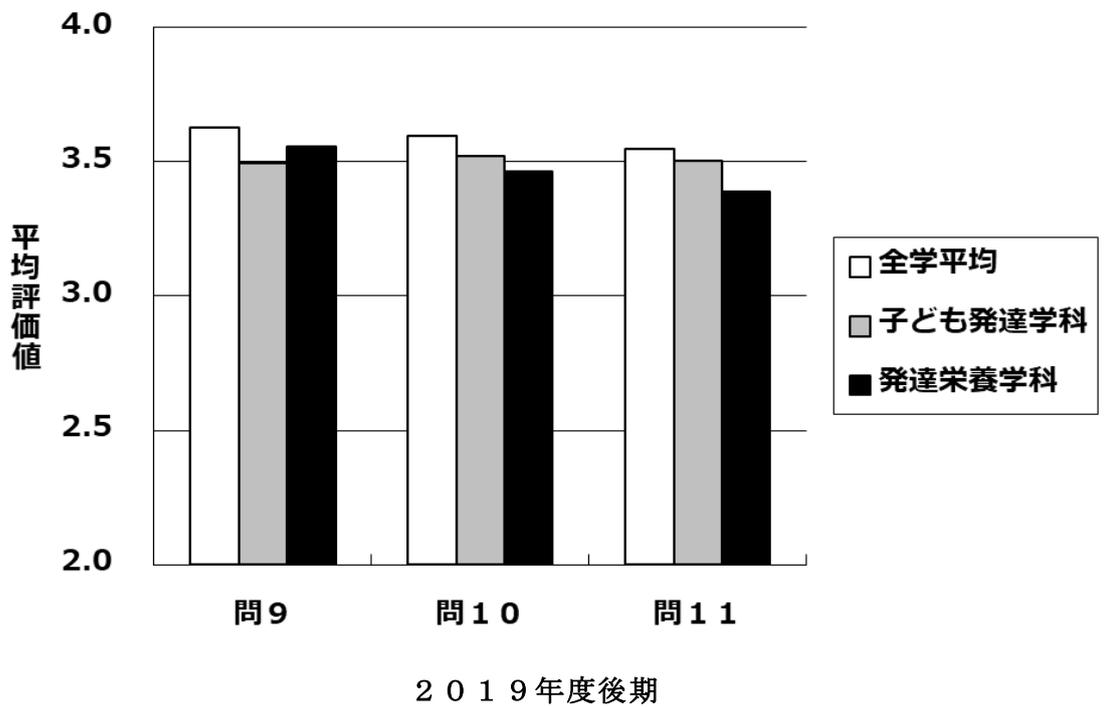
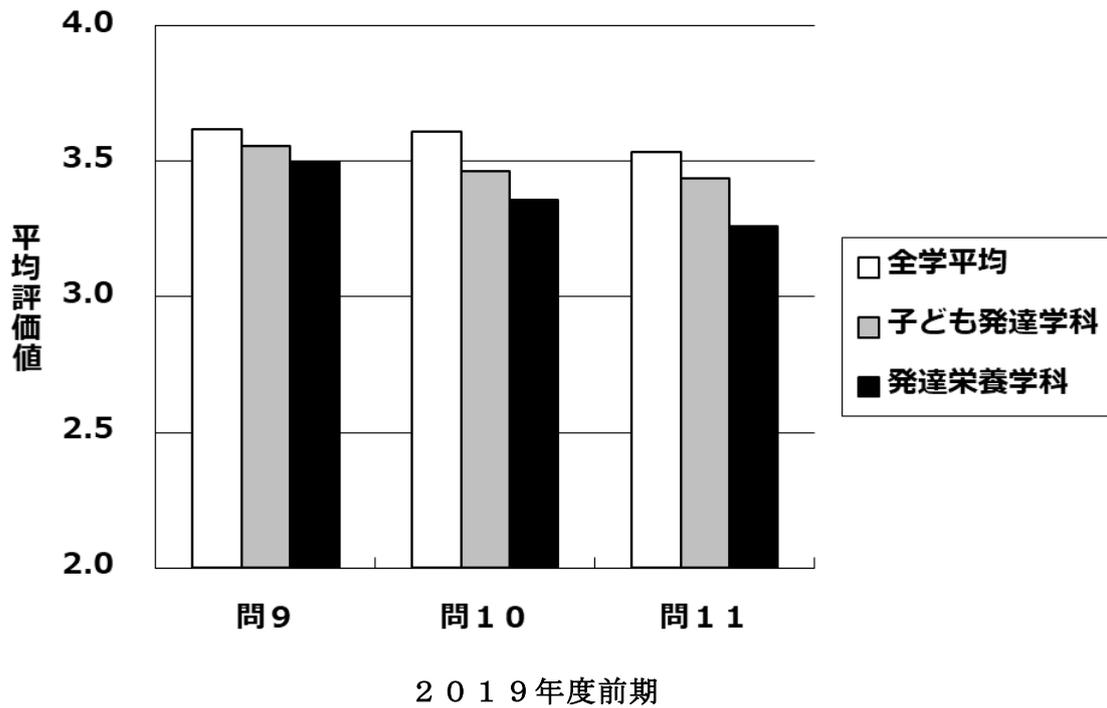


図3 全学および人間発達学部の間9～11の平均評価値

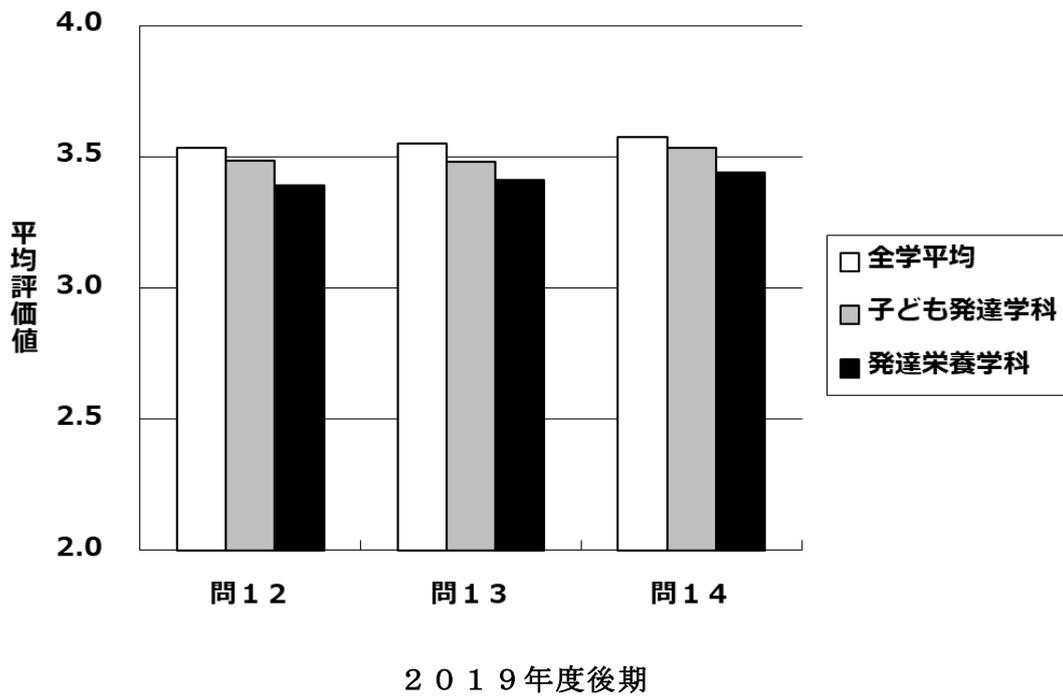
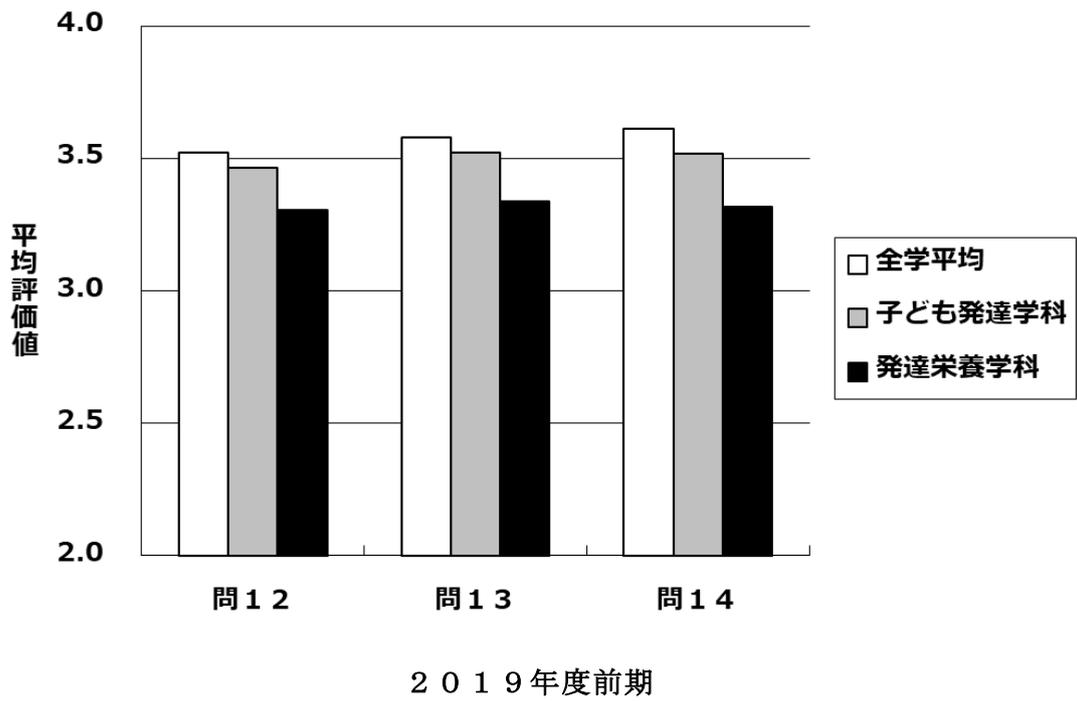
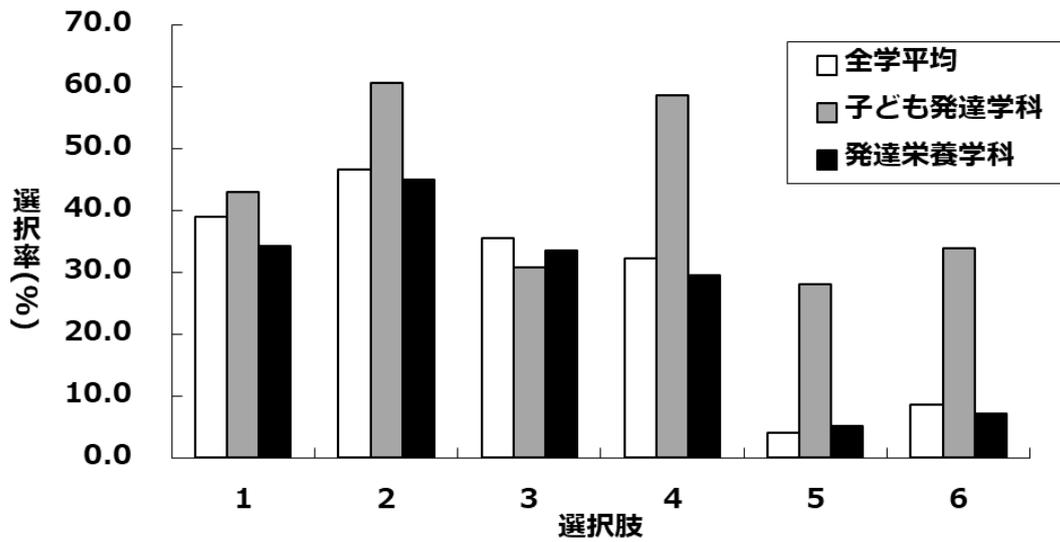
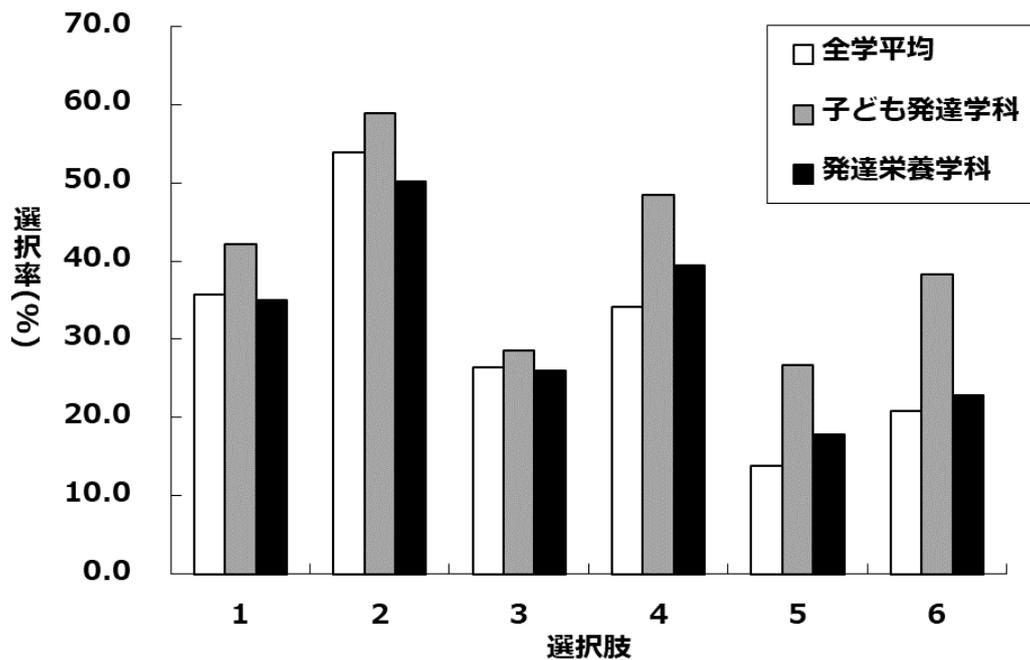


図4 全学および人間発達学部の間12～14の平均評価値



2019年度前期



2019年度後期

図5 人間発達学部の間15の選択率

※選択肢1：問題・課題を見つける力、2：考える力、3：調べる力
 4：主体的に取り組む力、5：プレゼンテーション力、6：コミュニケーション力

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.38	3.62	3.36	3.46	3.52	3.50	3.45	3.37	3.46	3.28	3.49	3.54
問2	3.41	3.71	3.38	3.70	3.72	3.67	3.59	3.52	3.62	3.42	3.50	3.32
問3	2.91	3.37	2.87	3.24	3.48	3.18	3.09	3.10	3.32	2.89	3.12	3.05
問4	3.40	3.63	3.37	3.77	3.83	3.69	3.49	3.64	3.72	3.56	3.48	3.27
問5	3.67	3.78	3.66	3.82	3.81	3.83	3.74	3.75	3.84	3.66	3.69	3.58
問6	3.55	3.71	3.53	3.78	3.78	3.78	3.72	3.67	3.78	3.56	3.59	3.46
問7	3.63	3.82	3.61	3.83	3.84	3.78	3.71	3.66	3.78	3.55	3.62	3.50
問8	3.52	3.71	3.51	3.51	3.73	3.63	3.62	3.58	3.73	3.43	3.54	3.41
問9	3.44	3.60	3.43	3.70	3.78	3.70	3.82	3.64	3.75	3.52	3.56	3.50
問10	3.54	3.77	3.52	3.63	3.81	3.74	3.55	3.64	3.73	3.55	3.47	3.36
問11	3.39	3.65	3.36	3.65	3.73	3.69	3.51	3.57	3.65	3.49	3.44	3.26
問12	3.37	3.57	3.35	3.67	3.64	3.69	3.71	3.50	3.61	3.38	3.46	3.31
問13	3.45	3.66	3.43	3.72	3.72	3.72	3.71	3.56	3.70	3.43	3.52	3.34
問14	3.48	3.78	3.46	3.72	3.71	3.76	3.71	3.62	3.74	3.51	3.52	3.32
平均値	3.44	3.67	3.42	3.66	3.72	3.67	3.60	3.56	3.67	3.45	3.50	3.37

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科
問1	3.50	0.00
問2	3.18	0.00
問3	3.73	0.00
問4	3.60	0.00
問5	3.07	0.00
問6	3.52	0.00
問7	3.50	0.00
平均値	3.44	0.00

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.34	3.35	3.34	3.44	3.85	3.36	3.17	3.32	3.48	3.18	3.51	3.42
問2	3.28	3.54	3.24	3.54	3.85	3.52	4.00	3.48	3.61	3.38	3.51	3.41
問3	2.72	3.13	2.66	3.18	3.50	2.98	3.33	3.02	3.33	2.77	3.04	3.10
問4	3.27	3.65	3.21	3.60	3.92	3.52	3.83	3.59	3.70	3.50	3.47	3.42
問5	3.69	3.86	3.66	3.79	3.92	3.67	4.00	3.69	3.77	3.62	3.59	3.61
問6	3.40	3.73	3.36	3.72	3.92	3.61	4.00	3.62	3.75	3.51	3.52	3.55
問7	3.40	3.70	3.36	3.69	3.77	3.67	3.83	3.64	3.76	3.55	3.54	3.55
問8	3.44	3.59	3.41	3.55	3.77	3.61	3.83	3.51	3.69	3.36	3.38	3.51
問9	3.43	3.71	3.39	3.76	3.54	3.63	4.00	3.67	3.74	3.62	3.49	3.56
問10	3.42	3.74	3.38	3.68	3.54	3.57	4.00	3.61	3.69	3.54	3.52	3.46
問11	3.28	3.69	3.22	3.49	3.92	3.49	4.00	3.53	3.64	3.45	3.50	3.39
問12	3.21	3.69	3.14	3.62	3.77	3.49	4.00	3.53	3.62	3.46	3.49	3.39
問13	3.28	3.58	3.24	3.59	3.85	3.51	4.00	3.54	3.68	3.42	3.48	3.41
問14	3.31	3.71	3.26	3.56	3.75	3.56	4.00	3.58	3.68	3.50	3.53	3.44
平均値	3.32	3.62	3.28	3.59	3.78	3.51	3.86	3.52	3.65	3.42	3.47	3.44

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科
問1	3.40	0.00
問2	3.15	0.00
問3	3.85	0.00
問4	3.87	0.00
問5	3.18	0.00
問6	3.71	0.00
問7	3.78	0.00
平均値	3.56	0.00

